

あおば館家庭的養護推進計画

青葉通信

第16号

発行
社会福祉法人
中日新聞社会事業団
中日青葉学園

社会的養護が重要な子どもたちを、より家庭に近い環境で育てる施設の小規模化が厚労省の政策で定められ、児童養護施設は平成二十七年から四十一年までの十五年をかけ、施設本体の定員を四十五人以下にして施設の中で六人から八人の子どものグループとして育てるユニット化、施設敷地外では地域小規模児童養護施設(六人)ファミリィホーム(六人)とする家庭的養護推進計画を二十五年度に作ることが求められました。これを

受け、あおば館は以下のような計画を策定、三月二十五日に開いた中日新聞社会事業団理事会で承認されました。愛知県内の施設を所管する愛知県児童家庭課が各施設から出された計画を調整し愛知県全体の計画を二十六年度にまとめることになっていきます。社会福祉法人中

日新聞社会事業団中日青葉学園は、昭和三十五年四月、虚弱児施設として定員三十人で開園。二年後の昭和三十七年、定員七十人に増員、平成十年、児童福祉法改正に伴い児童養護施設に種別変更。平成十五年、建て替えを機に児童心理治療施設を新設。児童養護施設は大舎制から中舎制に転換、児童養護施設「あおば館」(定員七十人)、児童心理治療施設「わかば館」(定員三十五人)を併せ持つ複合型児童福祉施設となりました。虚弱児施設であったため開設当初から地元日進市教育委員会の協力で敷地内に「日進市立北小学校・日進中学校青葉分校」を設け、生活と学校教育を一体的に行っています。

大舎制では、児童七十人が居室は男女別、食事は大食堂で全員一緒に取り、入浴は大浴場を利用するなど、生活は大所帯でした。中舎制では一人部屋二、二人部屋四、複数部屋二、リビング、キッチン、トイレ、風呂の八LDKで一つのホームを構成、十五人から十八人が一つのグループとして暮らすように変わりました。ホームは二階男子「けやき」、二階女子「しらかば」、三階男子「ひのき」、三階女子「もみじ」と男女各二ホームが二フロアに分かれ四つの中舎ホームとなりま

した。児童七十人のうち、幼児十人は男女混合で五人ずつ、女子ホームの「しらかば」「もみじ」に入りました。「施設養護から家庭養護、家庭的養護へ」を柱にした「社会的養護の課題と将来像」を受けた「児童養護施設は平成四十一年までに小規模化を進め、本体施設定員四十五人以下とする」との家庭的養護推進計画に基づき、あおば館は次のように中舎制から小規模グループに移行します。

第一期として大舎制から中舎制に変わって十年目の平成二十五年十月、女子ホーム「しらかば」を二分割、小規模グループホーム(八人)二か所「しらかば」(小学生以上女子)「さくら」(男女混合幼児)を開設しました。中舎三ホーム、小規模二ホーム、定員七十人。

第二期は平成二十六年から平成三十三年まで。平成三十三年、中舎一ホーム「けやき」を二分割、小規模グループホーム(六人)二か所とします。(中舎二ホーム、小規模四ホーム)。平成二十六年から平成三十二年までの七年間に年百五十万円積み立て、千五十万円を改修の自己資金に充てます。改修費用は四千万円、四分の三は補助金を充てます。平成三十三年度定員は五十八人。既設小規模二か所(各八人、十六人)、新設小規模二か所(各六人、十二人)中舎ホーム二か所(各十五人、三十人)。

第三期は、平成三十四年から平成三十七年。平成三十七年、中舎一ホーム「もみじ」を小規模一ホーム(八人)に改修。平成三十四年から平成三十六年まで三年間に四百五十万円積み立て、改修費に充てます。補助金を見込まず全額自己資金。平成四十一年度定員は四十四人。小規模六か所(八人定員四ホーム、六人定員二ホーム)中舎一ホーム(十五人)。

第四期は平成三十八年から平成四十一年。平成四十一年、残る中舎一ホーム「ひのき」を小規模一ホーム(八人)に改修。平成三十八年から平成四十年まで三年間に四百五十万円積み立て、改修費に充てます。補助金を見込まず全額自己資金。平成四十一年度定員は四十四人。小規模六か所(八人定員四ホーム、六人定員二ホーム)中舎一ホーム(十五人)。

～平成15年9月
大舎70人

男子棟 35人	女子棟 35人
食堂 浴室	

平成15年10月～平成25年9月
中舎70人

ひのき(男子)	もみじ(女子) 男女幼児5人
けやき(男子)	しらかば(女子) 男女幼児5人

1ホーム8LDK(17～18人)

I期 平成25年10月
中舎3小規模グループケア2=70人

ひのき(男子) 18人	もみじ(女子) 18人
けやき(男子) 18人	しらかば(女子)8人 さくら(幼児)8人

II期 ～平成33年
中舎2小規模グループケア4=58人

ひのき(男子) 15人	もみじ(女子) 15人
けやき①(男子)6人 けやき②(男子)6人	しらかば(女子)8人 さくら(幼児)8人

III期 ～平成37年
中舎1小規模グループケア5=51人

ひのき(男子) 8人	もみじ(女子) 15人
けやき①(男子)6人 けやき②(男子)6人	しらかば(女子)8人 さくら(幼児)8人

IV期 ～平成41年
小規模グループケア6=44人

ひのき(男子) 8人	もみじ(女子) 8人
けやき①(男子)6人 けやき②(男子)6人	しらかば(女子)8人 さくら(幼児)8人

十六年まで三年間に四百五十万円積み立て、改修費に充てます。補助金を見込まず全額自己資金。平成三十七年度定員は五十一人。小規模五か所(八人定員三ホーム、六人定員二ホーム)中舎一ホーム(十五人)。

「巣立ちの会」が三月二十一日、開かれました。ことしの対象者は、高校を卒業し専門学校に進むあおば館女子一人、就職するあおば館男子二人、わかば館男子一人。中学校を卒業して就職するわかば館男子一人、家から高校へ進学するわかば館男女各一人、就労支援施設に入るわかば館女子一人、他県施設に移るあおば館姉妹二人、家に帰るあおば館男子一人、姉妹二人の計十三人。

うち九人が一人一人学園生活の思い出を発表しました。野球部活動を三年続けた高校生は「夢を持ち、あきらめないで頑張った」と後輩たちに励ましの言葉を贈りました。会が終わると、花を手土産に退場する主役たちは、たくさ

「巣立ちの会」が三月二十一日、開かれました。ことしの対象者は、高校を卒業し専門学校に進むあおば館女子一人、就職するあおば館男子二人、わかば館男子一人、わかば館男子一人。中学校を卒業して就職するわかば館男子一人、家から高校へ進学するわかば館男女各一人、就労支援施設に入るわかば館女子一人、他県施設に移るあおば館姉妹二人、家に帰るあおば館男子一人、姉妹二人の計十三人。

うち九人が一人一人学園生活の思い出を発表しました。野球部活動を三年続けた高校生は「夢を持ち、あきらめないで頑張った」と後輩たちに励ましの言葉を贈りました。会が終わると、花を手土産に退場する主役たちは、たくさ

ナー協会愛知県支部、名港フットボールクラブの協力で花がいっぱい飾られ華やかな雰囲気になりました。

巣立ちの会



わかば館の思い出の数々



思い出を語る退園生



花いっぱい会場に入る退園生



フットボールクラブの協力



卒業証書授与式



あおば館けやきホームの出し物

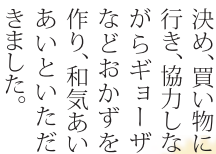
美味しかった
ちゅうしょく

日進市内の「寿し正」店主・杉尾正幸さんが一月二十九日、学園児童職員にすしをふるまってくれました。いただいたのはちらしずし、エビフライ、鶏のから揚げ、ポテトフライ百五十人分。杉尾さん家族三人が前日から準備当日は夕方、わかば館は食堂、あおば館は各ホームを回って、テーブルに配膳。子どもたちは、マグロやエビなどがのつたすしを、ごちそうになりました。



食育

あおば館ではホーム職員、栄養士、調理員が集まり、「残食を減らす。おいしく楽しく食事するためのマナー向上」について取り組んでいます。また、ホームで子ども、調理員、現場職員が夕食に当たり、みんなで話し合っつてメニューを決め、買い物に行き、協力しながらギョーザなどおかずを作り、和気あいあいとしたできました。



今日は楽しいひな祭り

学園で二回目のひな祭りが、三月二日、多目的ホールで開催されました。ソーイング教室で子どもたちが作ったつるしびなどをお披露目しようとして昨年からはまりました。今年の教室では、経験者は、ウサギ、クマのぬいぐるみ、初心者はつるしびなを作りました。当日は、みんなの作品と七段飾りを並べ、若月さんのオカリナ演奏を聴いた後、ケーキ、甘酒、ひなあられを美味しくいただきました。オカリナ一曲目で「ひな祭り」を元氣よく歌い、楽しく過ごしました。



幼児さんのお茶会

幼児さんのさくらホームは、角谷、印藤両ベテラン保育士が定期的なお茶会を開き、子どもたちに作法を伝授しています。抹茶をお客さんに運んだり、自らお点前をいただいたり。礼儀を学び、落ち着いた生活ができるようになるというです。



第三者評価受審

三年に一回義務付けられた第三者評価を受審しました。あおば館は福祉サポートセンターで一月二十四日、二十六日、わかば館は愛知県社会福祉協議会福祉サービス第三者評価事業所で十一月十四、十五日に行いました。

①養育・治療②家族支援③自立支援計画・記録④権利擁護⑤事故防止・安全対策⑥関係機関連携・地域支援⑦職員資質向上⑧施設運営一に分類、児童養護施設は九十八項目、児童心理治療施設は九十六項目にわたり、A、B、Cで評価される。結果はあおば館はA四十七、B四十八、C三。わかば館はA十六、B七十八、C一(通所の二項目は通所事業をしていないので評価なし)。安全対策、大学進学支援などが高い評価を受けた。

二十五年秋以降、多くの方から寄付や招待など応援を頂きました。浦川(三十五万円)・中日新聞販売部(三十四万円)・お菓子の家フレール(三十万円)・名古屋ニッポフアッシュ(卸商業組合(十三万六千八百二十五円)・青葉友の会、D.N.P. 経営会(伊達直人、コバック東郷三好店、匿名(十万円)・愛知中央ライオンズクラブ、大島夫夫(五万円)・成友斎マザータレサ(三万円)・本多豊子(二万円)・戸谷敏治、宮沢ミサ、伊藤多美子、加藤清吾、中日ビル中日パレス(一万円)・白山宮、日本餅餅組合、中部善意銀行、名古屋スポーツセンター、さんわコーポレーション、愛知ミタ力運輸、都筑、白竜神社、三菱商事中部支社、トヨタ自動車、スターバックスコーヒージャパン日進竹の山店、愛知県アマミューズメント施設、近藤産興、らーめん、橋まっぴい、ア

木下大サーカス招待

三月十五日、二十八日に名古屋市中区で開かれた木下大サーカス名古屋公演に招待されました。綱渡り、空中ブランコ、オートバイ乗り、ハラハラドキドキ。動物園では見られないシマウマ、キリン、ライオン、ゾウの動物ショーにビックリしたり、ピエロと一緒に笑ったり。赤い大きなテントの中で繰り広げられる二時間のプログラムを楽しみました。



ありがとうございました
ドイースト、日進市更生保護女性会、名古屋区更生保護女性会、全国青年司法書士協議会、マリオン日進店、日本フラワーデザイン協会、愛知県支部、劇団飛行船、光栄塗装、花王ロジステック、興亜商事、地方紙正月連合、劇団うりんご、日産労働、下畑加代子、三菱東京UFJ銀行、シャパン、フーズエクスパート、J.A愛知信連、中日新聞島田販売店、愛知県菓子技術専門学校、大林、チュウアング、子どもホールクラブ、中ドラゴンズ、公式ファンクラブ、カカオの木、高橋ちどり、LAB O.M.B、丹羽久子、ワイスプロジェクト、フリーダム、平成観光、ライム、千賀屋、春田建設、矢作興業、日本特殊陶業、寿し、かみや、動物園、和田屋茶屋亭、さかなや、ありがたや、麺屋はなび、アサヒ住宅、アサヒハウジング、匿名(以上物品、招待(順不同、敬称略))

ませんば
ちゅうしょく

三月二十四日、愛知県内のラーメン屋さんが、学園の子どもたちと職員に今話題の「ませんば」をごちそうしてくれました。「ありがたや」「さかなや」「和田屋」「茶屋亭」「麺屋はなび」の五店で、いずれも行列ができる人気店。店主さんらが学園厨房で手際よく約百五十人食作り、昼食としていただきました。

「特定の子だけが優しくされる」「いじめられる」など投書がありました。特別な課題を抱えている子に個別対応をすることが不満足につながっており、投書のある都度、かわりを持ち心の安定を図り、いじめについては、関係する子どもたちを交えて話し合いました。

中日青葉学園 理念
「和」
人の輪を広げ、豊かな心を育て、未来に向けて子どもと共に歩み、地域福祉の向上に貢献します。
方針
1 家庭的なホーム生活を通じ、子どもたちの情緒の安定を図り、安全で安心できる生活を提供します。
2 スポーツ・文化活動を通じ、仲間との連帯感、心身の健康、豊かな心、忍耐力を育みます。
3 児童の権利擁護に努め、子どもたちの言葉に耳を傾け、社会的な責任と自分たちの権利、義務について共に考え、自立を支援します。
4 地域との交流を深め、地域の子育て支援・ボランティア支援の役割を担い、地域に開かれた参加型の施設を目指します。
5 外部の専門機関との連携を深め、子どもたちにとって、より良い支援を行います。
6 子どもの最善の利益を念頭に、職員の教育・研修を行い、自己研鑽に努めます。

平成26年度 中日青葉学園予算

あおば館 (単位:円)		わかば館 (単位:円)	
収入の部	支出の部	収入の部	支出の部
1. 措置費 194,513,000	1. 人件費 135,402,000	1. 措置費 142,730,000	1. 人件費 116,111,000
2. 補助金 14,400,000	2. 事務費 20,436,000	2. 補助金 5,000,000	2. 事務費 14,733,000
3. 寄附金 3,200,000	3. 事業費 59,450,000	3. 寄附金 1,050,000	3. 事業費 28,561,000
4. 雑収入 4,500,000	4. 固定資産取得 5,500,000	4. 雑収入 2,620,000	4. 固定資産取得 2,500,000
5. 利息配当 5,000	5. 整備積立金 1,400,000	5. 利息配当 5,000	5. 整備積立金
6. 繰入金 7,000,000	6. 人件費積立 1,430,000	6. 繰入金 8,000,000	6. 人件費積立
7. 積立など取崩収入	7. 修繕費積立	7. 積立預金取崩収入	7. 修繕費積立
合計 223,618,000	合計 223,618,000	合計 161,905,000	合計 161,905,000

編集後記
あおば館家庭的養護推進計画を作成、小規模化に向けて動き出した。平成四十二年までに中舎を全て小規模グループに移行する。子どもとの関係が密になるため、職員により専門的スキルが求められる。職員育成が課題となっており、風通しの良い、働きやすい環境作りを努めます。

社会福祉法人中日新聞社会事業団
〒460-8511
名古屋市中区三の丸1-6-1
中日新聞社1階
電話 052 (221) 0580
ファクス 052 (221) 0839
中日青葉学園
〒470-0131
愛知県日進市岩崎町竹ノ山149-164
児童養護施設「あおば館」
電話 0561 (72) 0134
ファクス 0561 (74) 2315
児童心理治療施設「わかば館」
電話 0561 (74) 7752
ファクス 0561 (72) 7557